

10月21日記（米国時間）

イコピコから人気馬を外して残りに総流し

ダービー馬ロジユニヴァース不在で、「混戦」とされる今回の菊花賞だが、いま、ハワイにいるため、気持ちがいまひとつ盛り上がらない。先週の土曜日に日本を発ち、サンフランシスコへ。そして、ハワイにやって来た。さっそく、PCを開き、日本のサイトにアクセスして、菊花賞に関する情報をひとつおりに集めてみた。ただ、日本で同じことをしているのと気分がまったく違う。なにしろ、ここハワイには、日本のような秋はない。さっき天気予報を見たが、今日も最高気温は90度近くなる。いまでも真夏だ。

さわやかな秋風が淀を吹き抜け、その秋風に黄色い菊花が揺れる。

そういう光景のなかで、3000メートルを制する世代最強のステイヤーが誕生する。あるいは、3冠馬が誕生するというのが、菊花賞の風物詩だ。日本のG1は、こうした季節の風物詩の1つとして、カレンダーのなかに完全に溶け込んでいるから、その存在意義がある。

しかし、いったん海外に出てしまうと、それが味わえない。コンドのラナイに出ると、ワイキキビーチやダイヤモンドヘッドが一望できる。そんな光景のなかにいると、菊花賞が、今度の日曜日にあることが、まるで別世界の話としか思えない。



さて、出走馬表と下馬評から、有力馬を挙げると、

神戸新聞杯を直線一気で春のクラシック組を一蹴したイコピコが、一番人気になるらしい。父は菊花賞馬マンハッタンカフェだから、距離不安はない。続いては、2着に逃げ粘ったリーチザクラウン。ダービー2着の底力を示したので、今回も逃げるとすれば逃げ切りまであり得るとされる。さらに、4着の皐月賞馬アンライバルトの巻き返しも怖い。また、レベルはどうかだが、セントライト記念を勝ったナカヤマフェスタ、古馬相手の朝日チャレンジCで2着に頑張ったブレイクランアウトも有力だ。 ▽

こうなると、なるほど「混戦」はわかるが、この予想は、「混戦」も「乱戦」も「軸不動」もなにも関係ない。ひたすら、どのようにハズすかがテーマである。とすると、いまハワイにいる以上、ハワイ関連馬名で勝負するしかない。



うその昨年のスクワッドの馬がまたかやモ今回はどうだろうかと？

なんと、イコピコとは、ハワイ語で“頂上に”を意味するという。

とすると、このイコピコから上位人気馬5頭（1番人気から順に）を外し、残りの馬すべてに馬単、馬連総流しということにしたい。イコピコが頂上なら、トップ2頭、トップカミング、トップクリフォードの2頭は当然外

せない。